

2000年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度では、中緯度帯は概ね正偏差に覆われ、特にバイカル湖から北日本、太平洋東部、大西洋北部で顕著だった。一方、スカンジナビア半島から西シベリア、中国、カナダ西部では負偏差となった。亜熱帯ジェットは全般に南北蛇行が大きく、日本付近では北偏していた。対流活動はアジア域で概ね平年より活発であり、ITCZ（熱帯収束帯）では太平洋、大西洋ともに平年より北偏して、活発であった。インド中部、フィリピンの北部付近で平年より不活発であった。アジアモンスーンに伴う対流活動は平年より活発で、西に偏っていた。フィリピン付近の200 hPa 大規模発散域の中心は、ほぼ平年並の位置にあった。SOI(南方振動指数)は+0.6と再び正の値に転じた。

世界の天候

①西シベリアの高温

②中国北東部から日本の高温

ユーラシア大陸では広い範囲でかなり高くなり、異常高温となったところも多かった。東シベリアと日本南部から中国南部では低かった。

③日本の少雨

月降水量は南西諸島からモンゴルにかけてとシベリアの一部で多く、中国南部では異常多雨となった。一方、日本では異常少雨となった。中国北部では引き続き干ばつの被害が報じられた。

④中央アジアの高温

⑤ヨーロッパ南東部の高温・少雨

ヨーロッパでは高温少雨傾向のところが多かった。地中海沿岸部やヨーロッパ南東部では熱波や大規模な山火事の被害が報じられた。

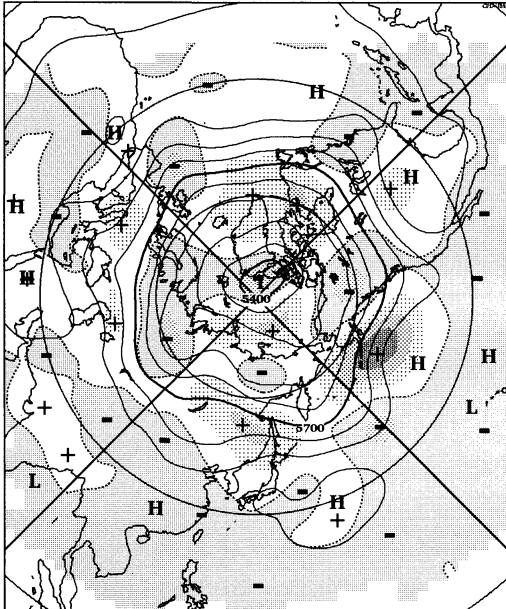
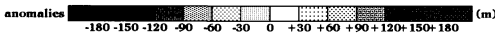
⑥米国中部・南部の高温・少雨

月平均気温は米国中部・南部で異常高温となった一方で、米国北東部や太平洋岸、アラスカでは低かった。米国北西部から南部では月降水量がほとんどなかったところが多かった。米国南部や中西部の各地で発生した森林火災による被害が報じられた。

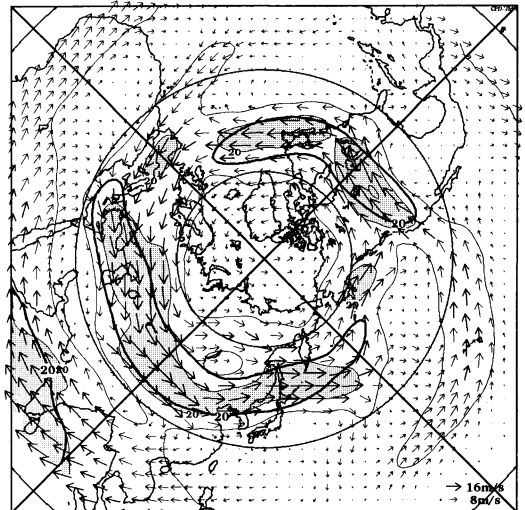
⑦ブラジル北部の多雨

月降水量はブラジル北部で異常多雨となったほか、アルゼンチン中部でも多かった。ブラジル北東部では豪雨による被害が報じられた。

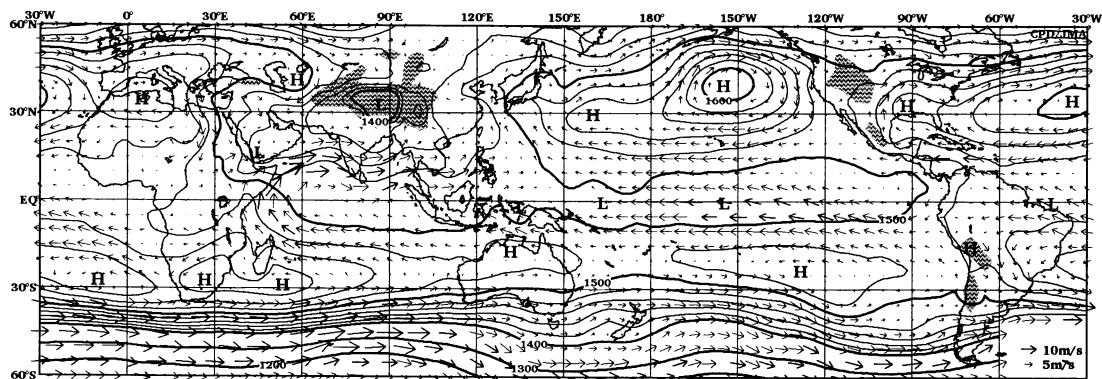
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 徳広貴之)



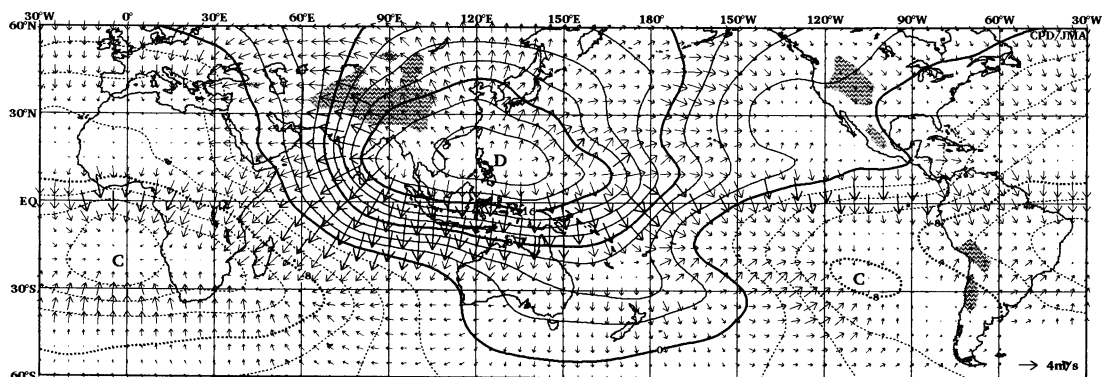
2000年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。



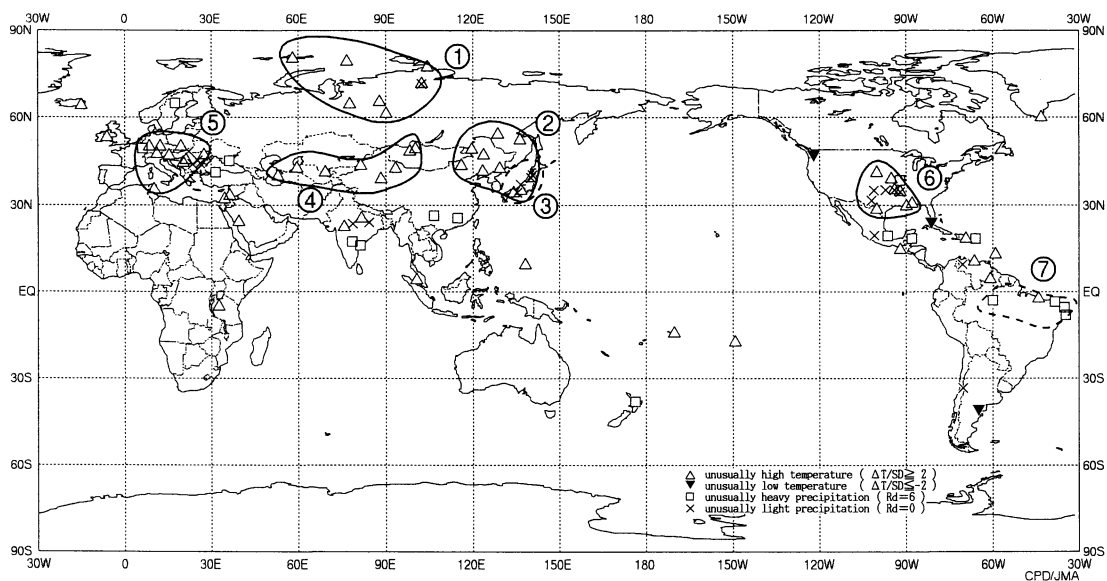
2000年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は平年で40 m/s 以上。平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年8月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2000年8月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.